

下関市総合計画審議会
第2回「賑わい・地域部会」 議事概要

日 時	令和元年6月3日（月） 16：00～17：00
場 所	下関市勤労福祉会館 4階ホール
出席者	下関市総合計画審議会委員 9名（欠席者3名） 下関市総合計画策定委員会 事務局（下関市総合政策部企画課）

【次第】

- 1 第1回専門部会におけるオブザーバーからの意見等について
- 2 第1回専門部会における意見等への対応について
- 3 第2次下関市総合計画後期基本計画（素案）の追加修正について

1 第1回専門部会におけるオブザーバーからの意見等について

部会長

本部会の委員以外のオブザーバー2名から、15件の意見を頂いた。本部会で意見として取り扱うかどうかについては、部会長に一任されているため、部会長の私が拝見した上で市には後期基本計画（素案）に関係する形でピックアップして頂いた。

1章、8章ともに多岐にわたったご意見を頂いた。論点としては、「下関市旧市と旧4町の格差」に関するご意見が複数、「まちづくり協議会と自治会の関係や担い手不足」に関するご意見、「動的なイベントには注意が払われているが、目立たない静的なもの（民生委員、保健所の活動など）への支援策が不十分」など。これらのご意見は、部会長として、本部会でも共有できる内容と考えているので、紹介させて頂いた。

オブザーバーのご意見の中には、追加案文が提案されたものがある。部会長の私の方でも、連携については他自治体との連携についても触れるべきと感じた。

本日は、前回の本部会での委員の皆様のご意見への対応、後期基本計画（素案）に対する追加修正について協議するので、ご意見を頂戴したい。事務局から説明をお願いしたい。

2 第1回専門部会における意見等への対応について

3 第2次下関市総合計画後期基本計画（素案）の追加修正について

事務局

（別紙1・別紙2を抜粋説明）

部会長

委員の皆さんのご意見をお願いしたい。本日の説明の他、1回目の部会で発言できなかった内容でも構わない。文章の詳細については次回詰めるので、論点の面でご指摘いただけるとありがたい。

委員

旧4町について書かれているケースが少ないという指摘があったが、文化面でもその傾向がある。例えば第1章第1節の各事業の方向における「(3)芸術文化活動の拠点施設等の整備・充実」では、市民会館・近代先人顕彰館について記載されているが、他にも学習プラザや公民館、旧4町だと生涯学習センターなどが市民の文化活動の拠点となっている。旧4町の施設についても記載した方が良い。

部会長

旧市と旧4町の記述については、市民の関心が高い。今のご意見に対して、検討の余地はあるか。

事務局

持ち帰り、反映できるかどうか検討したい。次回報告する。

委員

行政の管轄の違いで、記載される施設・記載されない施設が生じるのか。市民視点では同じ「文化活動の拠点」なので、記載してほしい。

事務局

文化活動の拠点施設については、第3章第5節でも触れている。章ごとの役割も踏まえて整理をして、次回報告したい。

委員

前回欠席した。人口が減って活力が失われるのは避けられない話ではあるが、唯一、活力が増すチャンスがあるのは、「自治会」に力を入れることと考えている。今の自治会は「旧態依然の自治会」だが、地域の中で新しいプログラムが展開できるとするなら、その主体は自治会しかない。自治会組織の戦略的改革について、前回の部会では議論になったのか。

部会長

自治会は旧来の自治会として位置づけられているが、まちづくり協議会が、旧来の自治会とは異なる新たなチャレンジの場として位置づけられている。ただし、まちづくり協議

会と自治会の関係が、上手くいっている地域もあればそうではない地域もあるので、市としての指導力を発揮すべきというご意見が挙げられた。

新しい自治会として、どうテコ入れるのか（組織率の低さへの対応など）については、次の課題となる。

委員

追加すると、地域の安否確認を含めたコミュニケーションが失われている。自治会を作り替えるしかないと感じている。テコ入れについて、何か検討されているのか。

事務局

まちづくり協議会についてはいろいろご議論頂いているが、自治会に焦点をあてた議論はこれまでなかった。次回には、自治会について何かしらの見解をお示ししたい。

部会長

本部会は「賑わい・地域部会」なので、私は賑わいの目玉が何かということを考えている。賑わいの場としては海峡部分に目が行きがち。他の場所については、角島など一部を除いて山が多いが、実はこれらの山で登山を楽しむ人が多いことを最近知った。しかし、登山道が十分に整備されていないため、現在の登山客はマニアが中心。現時点では登山利用という潜在能力が生かされていないため、今後、旧4町は登山によって新たな価値が見出されるかもしれない。感想でも構わないので、観光などについても何かあればご意見頂きたい。

委員

観光についてお話ししたい。5月24日、インバウンド会議に参加した。商工会議所が音頭を取り、観光に関係した方、交通会社の方、商業・小売業の方などが集まり、インバウンドを増やすことについて議論した。素晴らしい取組だと思う。業種を超えてインバウンド増という1つの目的に向かっているインバウンド会議のような取組は、エコシステムと感じる。ただし、これは下関市全体でのエコシステムなので、登山やトレイルのような旧4町での新しい価値を発見するためには、地域ごとに別途エコシステムが必要だと感じる。

一方、地域の方だけで議論することは重要だが、外部の意見も必要。下関市以外で外部の意見をどう活用して賑わいを生み出しているか研究して、下関市に取り込むのもよい（例：まち全体をホテル化することで、空き家問題の解決と地域活性化を進めるクジラ(株)のSEKAI HOTELの取組）。

委員

感想になるが、強く感じたことがある。私は下関市に住んでまだ2年なので、旧4町に

ついてよく知らない。旧市と旧4町を区分けする意識もない。若い人や下関市で新たに事業を起こすために来た方の多くも、多分同じ意識だろう。

意見の一部に、「旧市について記載するなら旧4町についても記載」という視点からものがあるが、ちょっともったいないと感じる。総合計画では、序論に「下関市は、旧市プラス旧4町全体で盛り上がっていく」ということを明確に記載したらどうか。

部会長

今のお話で感じたが、下関市は空間的広がりもあるが、世代的な広がりもある。現在の下関市のイメージは、中高年者が持つイメージになりがち。外部や若い人の下関市イメージを加えて、情報の広がり視点から整理する必要があるかもしれない。

委員

言葉の使い方に敏感になるが、「賑わい」という言葉が気になる。旧4町や中山間地の課題は、イベントや賑わい対応ではなく、「買い物できない」、「交通手段がない」、「学校に行けない」など、人の生死の問題への対応。市街地に住む人間が「賑わいの場ができれば、豊かになる」と感じる観点とは異なる。旧4町でも、角島などには多くの観光客が訪問して賑わっている。しかし、それで地元が豊かになっているのか。決してそうではない。人口が減る地域に対して、市としてどこまでリソースを使うのか。それとも人口が減る地域の人に人が多いところへ移住してもらうか。このあたりの区別や決断、選択肢の提示を今やっておかないといけないと感じる。

そもそも総合計画は、どの程度まで自由度や柔軟性があるのか。記載している内容しか出来ないというレベルでの硬直性はないと思うが、あるかぽーとを中心とした整備や第二関門橋の整備などにより、社会や環境が激変した場合、総合計画に何処まで拘束されるのか、ということについて気になる。

委員

私は菊川町出身だが、旧4町は取り残されている・旧4町は総合計画で十分に扱われていない、などとは感じていない。私たちは私たちなりに一生懸命頑張っている。定年が伸びた今の時代、地域で安心して暮し続けるためには、自分たちのことは自分たちで守っていくという姿勢と、そのために地域の皆が集える場づくりが必要。後期基本計画素案第8章4ページには「2. 地域コミュニティ組織の育成支援」とあるが、ここで町民館の建設・維持補修への支援や活動の場の確保などについて記述してあるので、市には「地域の皆が集える場づくり」をして頂いていると解釈している。それを地域がどう活かすか、という視点が重要。旧4町は元気にやっている。

部会長

心強い話である。地域で自発的に頑張ってもらうことが重要。「下関市はまだ大丈夫」、という良い見本となっている。

委員

私は下関市に住んで3年目になる。私の出身は由布市（旧庄内町）だが、湯布院と庄内と挾間の3つの町が合併して誕生した。非常にエリアが大きく、旧湯布院町は黙っていても人が来るが、旧庄内町は交通の便が不便。自分が子供のころに比べると、公共交通機関の便数が10分の1程度になっている。下関市も同じ状況があるのでは。旧4町については詳しくないが、大学職員の中で山陰線を利用する者は、1本電車を遅らせると、到着時間が1時間程度遅れる。

市街地から離れていても、交通の便が良いところであれば人は住む。JRが減便ならバスの便数を増やすとか、高齢者が公共交通機関を利用しやすくする（ワンコインバス導入など）とか、旧4町の中心部に宅地を開発するとか、そういったことが考えられないか。

委員

私は前回の総合計画づくりにも参加した。下関市の活力を取り戻すこと、賑わいや活性化については、期待以上の成果があがるなど良い方向になっていると感じる。その良い方向をいかに上手く活かすかが、今後の課題。下関市に対するインバウンドが増えているなら、市内全体を訪問してもらうことが重要だが、こうした活かし方について地域が支えられない。中山間地に加えて市の中心地でもバスの運行状況は厳しく、元の本数に戻すのは至難。良い方向の活かし方について、後期基本計画の中できちんと作戦を立てないと、今後は厳しい。

吉田地区の取組はよい事例だが、他のところは違う。人口減は止められないが、地域の人みんなで助け合って幸せになる方策をこの10年で作らないと、大変なことになる。

部会長

皆様のご意見を踏まえて、事務局として何かあればコメント頂きたい。

事務局

コミュニティのあり方や自治会のあり方など、大きな宿題を頂いた。総合計画にどう反映させるか、検討したい。

部会長

次回の専門部会について、説明して欲しい。

事務局

今日の皆様のご意見の後期基本計画素案への反映について提示して、協議したい。加えて、目標指標（数値）の案についてもお示しするので、これについても協議したい。

事務局

第3回部会は、7月2日（火）13:30 からを予定している。次回もお願いしたい。

以上